

# 会 議 録

会議の名称	守谷市図書館協議会（令和7年度 第3回）		
開催日時	令和8年1月23日(金) 開会：15時30分 閉会：16時45分		
開催場所	守谷市役所 ミーティングスペース1		
事務局（担当課）	教育委員会 中央図書館		
出席者	委員	長谷川委員、野口副委員、岡宮委員、吉澤委員、赤堀委員、古橋委員、畑石委員、堀越委員、千委員、広永委員 (出席：10名)	
	その他		
	事務局	平塚館長、柳葉副館長	
公開・非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
公開不可の場合はその理由			
会議次第	1 開 会 2. 挨 拶 3. 協 議 (1) 守谷中央図書館リニューアル後の運営形態(案)について (2) 守谷中央図書館大規模改修工事の進捗状況について (3) その他 4 閉会		
確定年月日	会 議 録 署 名		
令和8年3月24日	長 谷 川 登 代		

## 審 議 経 過

### 1 開 会

柳葉副館長：10名の委員が出席、守谷市図書館協議会設置条例第6条第2項の規定により会議は成立。傍聴者は1名。

### 2 挨 拶

長谷川委員長  
—委員長挨拶—

### 3 協 議

#### (1) 守谷中央図書館リニューアル後の運営形態(案)について

長谷川委員長：協議事項(1)守谷中央図書館リニューアル後の運営形態(案)について、事務局から説明をお願いします。

—平塚館長から運営形態(案)について、資料を基に説明—

赤堀委員：私が調べた限りでは、県南地域の図書館のほとんどが毎週月曜日を休館日としています。月に2回という設定は変則的で、利用者にとってはかえって分かりにくいと感じます。美術館や博物館のように、毎週決まった曜日が休みである方が、利用者にとって定着しやすく、利便性が高いのではないのでしょうか。土曜日・日曜日でも午後5時までの開館で十分だと思います。図書館は『行きたいから行く』場所であり、事前に休館日が分かっていたら、利用者が困ることは少ないでしょう。

吉澤委員：以前住んでいた神奈川県海老名市の図書館も毎週月曜日が休館日でした。祝日と重なる場合は翌日が休館となる運用でしたが、特に不便を感じたことはありません。利用者としては、休館日があることに慣れてしまえば問題ないと感じました。

長谷川委員長：この問題は、実際に試行してみないと分からない部分もあると思います。他所の事例にならうだけでなく、守谷市の地域の実情に合った運営方法を見出し、柔軟に改善していくしかないのではないのでしょうか。他に、ご意見はございますか。

野口副委員長：新しい図書館ができるのであれば、運営の開館時間や休館日も新しい考え方で設定しても、市民は違和感なく受け入れると思います。資料にもあるとおり、職員の働き方改革や運営の持続性という観点は非常に重要です。職員が長く働ける職場環境は、市民にとっても大きなプラスとなります。この観点から、土曜日や日曜・祝日の開館時間短縮も検討の余地があると考えます。休館日については、他の公共施設でも祝日の翌日が休館となる例が多いことと同様に、図書館も月曜日を休館日と決めてしまうのも一つの考え方です。

赤堀委員：昨今は、月曜休館日でも祝日の関係で休館日がずれる場合もありま

す。分かりやすい休館日が望ましいです。

広永委員：土浦市や柏市など、他の図書館と比較すると、守谷市は開館時間が長く、休館日が少ないと感じます。これは運営上大変なことだと思います。これまで常に開いていることが市民にとっての特徴であり、売りでもありましたが、運営の負担軽減のためには、休館日を増やすことについて、市民の皆様にご納得していただくしかないかもしれません。

長谷川委員長：これも、実際に運用してみないと分からない部分があるため、まずは試してみて、必要に応じて見直していくという形が良いのではないのでしょうか。ただし、アンケートで休館日について具体的な項目を設けていないとのことですが、ご意見欄などで休館日について触れている市民の声もあるかもしれません。それらも踏まえて、柔軟に変更できる余地があれば良いと思います。

野口副委員長：一度休館日を増やしてから元に戻すのは、職員体制やシフトの関係で難しいでしょう。だからこそ、決めるのであれば覚悟を持って進めるべき案件だと感じます。

平塚館長：休館日や開館時間の変更は条例に定められており、議会の承認が必要となります。現状、指定管理移行後に条例改正を行っていなかった経緯もあり、試行的に運用してきた部分もありますが、今回は正式な形で変更を検討したいと考えております。

委員の皆様からは毎週休館しても良いというご意見を多くいただいておりますが、これまでの運営経験では、『利用しない日があっても開いている方が良い』という考えを持つ利用者が多いと感じております。

また、図書館は大規模改修によって、資料を借りるだけでなく、より多様な利用を想定した施設になります。しかし、駅に近くないため、夜20時や21時といった遅い時間までの開館は現実的ではありません。休館日を安易に増やしすぎると、利用者からのご意見が多くなり、その対応が職員にとって負担となる可能性もあります。

現在休館中であるため、アンケートを実施しても『開いていた方が良い』という回答が多くなることが予想され、現状でのアンケート実施は現実的ではないと判断しました。今回の案は、利用者に受け入れられる範囲での見直しとして提示しています。将来的には市の財政状況や人口減少などにより、さらなる見直しが必要になる可能性もあります。DX化によって生まれた時間を他の業務に充てたり、人員を削減する方向性も出ていますが、現時点では図書館の予算が大幅に減る状況ではありません。リニューアルへの期待も高いため、まずは受け入れていただける範囲での見直しを行い、将来的には時代の流れや財政状況に応じて再検討する時期が来るかもしれません。

古橋委員：休館日については、他市の公共施設と同様に、ある程度決まっていた方が良いと思います。私は週に何回かプールに通っていますが、守谷市のプールは火曜日、他の地域のプールは月曜日と、休館日が決まっています。利用者はそれに合わせて行動するため、図書館も休館日が決まっていた方が良いと思います。それよりも、図書館のサービス内容や質を向上させていただければ、市民の皆様も納得してくれるのではないのでしょうか。

畑石委員：質問ですが、定例休館日が月1日というのは現状ですが、職員の方々の休みは取れているということでしょうか。それであれば、労働環境が悪化しているということにはならないですね。

平塚館長：はい、労働環境が悪化しているわけではありません。市役所と比較しますと、不規則な勤務という面があるということです。

畑石委員：図書館は本を借りるだけでなく、受験生や高齢者が勉強する場、要するに『居場所』としての利用も多いと感じています。そのため、休館日を無制限に増やしていくのはあまり良くないと考えます。現状が月1日であれば、月2日程度に抑えるのが、様々な問題を解決する上で適切ではないのでしょうか。

堀越委員：私の意見としては、毎週月曜日を休館日とすべきです。他市町村でも同様の運用がされており、現在の運営体制や社会情勢を考えると、休館日を設けることで、限られた人員や予算の中でも、より効率的で質の高い運営が可能になると考えます。休館日であっても職員はローテーションで勤務していますので、この体制を最大限に活用し、これまでと同等かそれ以上のサービス維持・向上に努めていただきたいと考えます。

長谷川委員長：ありがとうございます。図書館には基本的なルールがあるはずで、それに則って、休館日を設定する必要性や、必要なサービスを、時代の流れに合わせてうまく組み入れていくことが重要だと考えます。他にご意見はございますか。

吉澤委員：勉強の場や居場所として利用される方もいらっしゃると思いますが、図書館スタッフの皆様の選択肢にはないかもしれないものの、地域の文化会館や公民館など、集会できる場所の活用も検討できるのではないのでしょうか。クールシェアなど、市役所の一角なども含め、他の場所を学習スペースとして活用することを提案しても良いかもしれません。そうすれば、月曜日から金曜日はこれらの場所も利用できるため、利用者の選択肢が増えるのではないのでしょうか。

千委員：鎌倉市でも開館時間や休館日について議論した経験があります。利用者は開館時間の延長を望む傾向にありますが、実際に試しても利用増にはつながらなかった事例もあります。むしろ、利用者にとって分かりやすいのは、毎週月曜日といった固定の休館日を設定することで

す。守谷市はこれまで休館日が少ないことを特徴としてきたため、急に休館日を増やすことには難しさもあると理解しています。

しかし、正規職員が8名いらっしゃる現状で、仮に休館日を増やしたとしても、それを理由に職員を削減することは絶対に避けていただきたいです。むしろ、休館日設けるのであれば、その時間を活用し、DX化の推進や職員の専門性向上に注力すべきです。これにより、レファレンスサービスや読書バリアフリーなど、デジタルでは代替できない、より質の高いサービスを提供していく方向で検討していただきたいと考えます。

長谷川委員長： 結局、地域の実情やこれまでのやり方を重視しながら、市の予算内で図書経費を維持できる体制を整えるのが理想的だと思います。一般の利用者は、意見を言えば自分の意見が通ると思いがちですが、論理的に説明するのではなく、『こういう考え方もあります』と提示し、元の図書館のあり方に近づけつつ、少しのサービスを追加するというやり方もあるのではないのでしょうか。図書館の形態は昔と大きく変わっており、単に本を読む場所ではなく、他のサービスも提供しています。この需要と供給のバランスをうまく取ることが重要と考えます。他に、ご意見はございますか。

野口副委員長： 私個人としては、休館日はある程度決めておいた方が良いと思います。職員の健康やワークライフバランスも考慮する必要があるためです。私も月曜日を毎週休館日とすることには基本的に賛成ですが、図書館は『サードプレイス』や『ラーニングコモンズ』としての意味合いも持つため、特に夏休み期間中など、子どもたちが図書館で過ごせるように、8月だけは月曜日も開館するなど、工夫で対処できると良いかもしれません。それ以外は毎週休みと決めてしまうのも一つの手だと思います。

私から、質問ですが、公民館（図書室）は月曜日が休みではないのですか。

平塚館長： 公民館の定例休館日は第二水曜日のみで、その日は館が閉まっておりますので、図書室も休みとなります。もし図書館が毎週月曜日を休館日とすると、付帯施設である図書室も一緒に休むことになり、月に5日程度休室日となってしまうこととなります。

野口副委員長： 公民館図書室は月曜日に開館し、毎週水曜日を休館日とするなど、市民が常にどこかで本にアクセスできるような運営はできないものではないでしょうか。これは職員のローテーションによるものかと思いますが。

古橋委員： 図書館と公民館の図書室は規模が異なります。現状、公民館で本を借りに行っても物足りないと感じる市民も多いです。蔵書に偏りがあること、リクエストしないと希望の本が借りられないこともあり、そ

のため公民館の利用者は少なくなっているのでしょう。

平塚館長： ご指摘のとおり、蔵書の違いはございます。しかし、中央図書館が休館していた8月末から現在までの間、中央公民館図書室の利用は昨年同時期と比較して約3倍に増加しました。他の公民館図書室も1.1倍程度の利用となっております。公民館のキャパシティを考慮すると、これは大変喜ばしい状況であり、市民の皆様の読書意欲が低下していないことを実感しております。主要公民館には図書館のスタッフを応援として派遣し、人員体制を強化して対応しているため、職員の労働環境が悪化したわけではありません。

しかし、公民館の収容人数には限りがあり、休日などはカウンターにいらしたお客様のお顔を見る余裕もないほどで、他の業務も十分にこなせない状況でした。図書館休館によって公民館図書室の利用が拡大したこと自体は、非常に有意義であったと考えております。公民館図書室が地域の皆様に愛され、利用されている場所であることも、改めて私たちが実感しているところです。

長谷川委員長： 昔の中央公民館も読書スペースがあったと記憶しています。それを思えば、今ではより親しみを感じる場所になっていると思います。公民館図書室をうまく活用し、市民に活用してもらうための工夫が必要ですね。

畑石委員： 現状や事実について、よく分からない点がありますので、質問させていただきます。若手職員が長期的な環境として課題があるという点は、資料内にある二交代制に関する内容でしょうか。要するに、二交代制をなくす方向でいかないと職員の方は大変だということでしょうか。

平塚館長： そうですね。二交代制でなければ、という点もあります。若手職員が子育てをやる中で、閉館が19時となると、帰宅後の時間が短くなり、子育てとの両立が難しくなるという声もあります。既に子育てを終えている世代であっても、19時15分まで仕事をして帰宅すると、あっという間に夜遅い時間になります。

畑石委員： 普通の企業であれば、特別な休暇を与えるなどの制度があると思いますが、図書館にはそのような制度はないのですか。

平塚館長： 市には特別な休暇制度はもちろんございます。子育て中であっても、安心して勤務できるような制度は整えられていると思います。

畑石委員： 若手職員の不安を解消する方法の一つとして、例えば出産休暇などをもう少し長く取れるようにするといった対応も、喜ばれるかもしれません。

平塚館長： 市としてある程度十分な制度は整備されていると考えておりますが、市役所は基本的に土日が閉庁日ですが、図書館は、休日も出勤がある上に、終業時間は19時15分と市役所よりも2時間遅いという違いがあります。同じ時期に採用された職員が市役所に配属された場

合と図書館に配属された場合で勤務環境に差があるということです。これは施設の性質上の違いなので仕方ないことではあります。

畑石委員：なるほど。その違いを解消する必要があるのでしょうか。図書館の仕事は素晴らしい仕事ですから、それで満足してもらえれば、多少の差は許容範囲なのではないでしょうか。

平塚館長：私達のように司書採用で、図書館への配属が前提で入庁したものと、市役所の職員になるという思いで入庁したが、司書資格を持っていたことで図書館に配属されたものとは、最初の気持ちに多少なりとも違いがあると考えます。今後、新たに司書採用を行うことは難しい状況です。そうすると、職員の間には、漠然とした不満や疑問が出る可能性があると考えます。

畑石委員：これは休館日だけの問題ではなく、他の様々な要素が不満として蓄積しているということでしょうか。

平塚館長：今のところ、不満が蓄積しているという状況には至っていないと思っております。

畑石委員：承知しました。もう一つ質問があります。本日も提示いただいた資料の利用者数の月別変化を見ると、私の想像では、学生が勉強で利用するため、8月や受験期の11月～2月あたりは人数が多いと思っていましたが、そのような変化は出ていませんね。なぜでしょうか。

吉澤委員：もしかしたら、受験を控えている学生等は、あえて人が集まる場所に行って感染症をもらうことを避けているのではないのでしょうか。

畑石委員：私が見たところ、いつも勉強室は満員のようです。

千委員：年末年始は休館日が多くなるため、利用者数が少なくなる傾向があります。12月と1月は休館日が多いため、それらを考慮すると利用者数が少ないかもしれません。

畑石委員：利用が多い月は、いつ頃でしょうか。

平塚館長：年間では7月と8月が最も多く、約1万1千人程度の利用があります。

## (2) 守谷中央図書館大規模改修工事の進捗状況について

長谷川委員長：協議事項(2)守谷中央図書館大規模改修工事の進捗状況について事務局から説明をお願いします。

—柳葉副館長から、大規模改修工事の進捗状況について、資料を基に説明—

畑石委員：改修中の写真には増築棟が映っていますが、これは既存の建物とは別に新たな棟を建てるということでしょうか。

柳葉副委員長：はい、増築棟を建築いたします。既存の壁を取り壊し、その増築棟を既存の建物に接続する形となります。

## (3) その他

－柳葉副館長から、リニューアル後の完成予想図等を投影し、説明－  
＜意見なし＞

#### 4 閉 会

柳葉副館長： それでは、以上をもちまして本日の図書館協議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。